(郵便物認可)　(本號六面)　明治二十二年十月十八日　(定價金二錢)

時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

時事新報定價
時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價送料廣告料ハ左ノ如シ
一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓
〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送達スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日幷ニ大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合ニは新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

日本商工家諸氏に告ぐ(一昨日の續)

凡そ法律の良否とは其文面の美惡を謂ふニ非ず人民之れに安んじて其精神の滑に行はるゝと否とニ在るは人の能く知る所ニして彼の英國の法律の如き所謂慣習法にして前例舊規を根本とし昔の裁判を鑑みて今の弊伴を判決し此判決を例として後の模本に供するの順序なるが故に突然英國内に入りて其法律を取調べんとすれば錯雜紛糾、亂絲の端緒を覩がたきが如く先づ以て茫然自失するやうの次第なれども顧みて猶邇國を見れば聯邦統一、日荷は漸く其法律諸規則の如き多くは新規制定に係り一冊の法規類典、一片の官令新誌を得れば各種の法律、一目瞭然、何の苦もなく其外形を見るとを得るが故に從來政法調査と云ひ或は制度視察と云ひ我國より歐洲に出張するものは調査の六ケしき英國を過けて觀察の手易き獨逸國に向ふの氣味あるが如く事の實際に於ても獨逸法の英國法等ニ勝るもの少なからざる可しと雖ども我國の民度習慣將た其氣風等を究めず唯その法律文の美ニして解し易きを見て直に之を讃譽して立て我が法律と爲すが如きともあらば其法律精神の滑に行はれざるのみならず人民或は當惑して之れニ安んぜざるの奇相もある可し我輩は我が當局者と共に斯る奇相の世間に現はれざらんとを祈りて已まざる者なれども人生功名の念あらざるものなく吾が何省何局ニ官たりし時、何々の名案を工風して何々の新法律を施したりなど云へる事は蓋し其向きの人の得意にして此得意候を演するが爲めに天上頻に新奇雲を釀して法律雨下の勢を呈するが如きは率土の民の當惑する所、又我輩の好まざる所にして特に彼の商工業等に關する法律規則は商業社會の秩序を亂かし間接直接人の財産權に差響くものなるが故に成る可く慣習を因襲して漸次ニ改良の歩を進め反覆鄭重滑に法の精神を普及するの工風專要あらんのみ

國體すれば一昨年中ブールス條例の發布ありしが凡そ此種の取引所は商業社會の其中ニて最も鋭敏なる部分にして其取引上に於ては種々の習慣故例もありて其秩序を維持するが故に一朝新條例を以て之を破壊し去るときは爲めに商業上の安寧を害し到底人の財産權をも傷くるニ至る可しとて我輩は當時條例發布前より毎度之を論辯したるとあれども微意當局者に貫徹せずして條例は發布したるものゝ愈々之を實施するに至りて果して種々の苦情を生じ又樣々の困難を釀して爾來今日に至るまで其精神の行はれざるは決して偶然の事に非ず抑も歐米諸國にてブールスと云ひストックエキスチエンジと云ひ(歐洲大陸佛獨等の國にては相場所をブールスと稱し英米等にてはストックエキスチエンジと稱し甲は御役所風にして乙は商業家風なるは前回對比したる商法會議所の相違に似たり他日之を細述して其得失を評するとある可し)其仕組は簡單なる者にして實際に慣れざれども見れば東京市中の大根河岸にて人參牛蒡を買賣すると同樣、銘々勝手に買手を求め又賣手を見出して互に賣買するまでにして異なる所は直ニ現金を遣り取りすると定期賣買約束の法を用ふると唯此相違あるのみなり斯る簡單なる仕組を以て幾千萬圓の取引を行ひながら平常違約破談等の行違ひなきは彼の國商業社會の習慣ニ商人の信用堅固なるが爲めにして商業社會の習慣も違ひ商人の信用も固からざる我が日本國中に突然此仕組を移し來りて之を實際に施さんとするは俗に所謂木に竹を續ぐと一般、前後不都合を免れざる事、數の當に然るべき所あり左ればよや今の農商務大臣井上伯は昨年十月新設相場所に關係ある人々を農商務省に招集してブールス中止談を演說したる其中、農商工に關する法律規則は政府部内より天降るものにては幾回の制定改正を爲すも其結果は前日と一般、決して改良の眞面目を開くまで必ずや人民即ち實業家の考案を盡したるものが天上するに非んば實際の効益を爲す可らず云々役人がテーブル上の議論を以て法律を作り之れを以て實業家を逼廻はすやうにては自治の本源は立たざる者と云ふ可し抑て實業に關する事は何事に拘はらず常に其道の人の意見ニ由り組み上げたるものを政府にて認可するが如く押し進み行かざれば營業上の自治も確乎たるを得ず云々と陳じて前十一時より午後三時まで非行を見合せ休息すべしと忠告したれども余は之を聞き一笑に附したりしニ實際其地を踏むに及んで一士官の言、余を欺かざるを曉りたり云々

○茨城縣那珂港の改築　茨城縣那珂港の改築費豫算は或は廿萬圓にて事足るべしと云ひ或は四十萬圓を要すべしと云ひ孰れにも未だ決定せざれど兎に角改築の運に至りなば同港の有志者より十萬圓位は醵出すべしと云ふ

○鳥取市會議員の撰擧會　は今十八日より同市敷片原町眞宗寺に於て執行するに付き撰擧掛四名を選びたり十八日は三級議員(十人)二十日は二級議員(十人)二十一日は一級議員(外十人)を選擧する筈にて注意の爲めとて其手續を告示したり

○岐阜に於る建白委員　野口代治、仙石の有志者は去の慰勞を兼て建白委員に及び席上數頃散せりと同

○青森縣知事　箇村の人民は域解除の儀の處分を不當吉田喜代松、工宮武兵衛氏は同るも被告人即しが今度知事き又原告ともし一日及び三日の

○秋季潮動會　七日飛鳥山ニ於すといふ

○和歌山の紀州開は先きの洪水に五十餘日に涙の人々は隔日を以て其機關に

○沖縄の氣候　打續きて炎熱三度ニ至り爲め蒸鬱して收穫高燥の箇所は五分の收穫を減の如きは通常價方山林及び道路を新設する由資五百圓宛を廣業は來る二十五

○海防輸出の見　で海産物即ち俗に絲を採集したして試食したるニ見込ありとの

を探究したるニの歩く一は頭の高く高くなりて其

第二千四百四十六號
明治廿二年十月十八日　金曜日
舊暦巳亥九月廿四日　(丁卯)
日出午前五時五十一分　入午後五時零一分
月出午後十一時五十九分　月入午後一時三十九分
潮滿午前十一時零六分　潮干午後十一時四十三分
(西暦一千八百八十九年)

○汽車の諸書用電氣燈　電氣應用の發明多き中にも特に米國南東鐵道の汽車に設けし諸書用電氣燈の燈きは最も新奇のものにして弊と是れ一種の自働電氣に基き一センチメートル(凡二錢五厘)の貨幣を投ずれば之ニ價する燈火を得るの工風なりとす今其方法を記さんに電氣燈を幅三インチ長五インチの小函中ニ置き乘客の眼上ニ當る客室の屋根裏に備付たるものニて乘客若し諸書等の爲め燈火を要するとき立て電氣燈の上部に當れる小き孔ニ一ペニーを投じて鈕を壓せば其の鍵の目方にて爆烈たる五燭光力の燈火忽ち點じて半時間を保つべく斯くて各列車中に蓄電器の備へあれば尚ほ火光を要する時は新ニ又一ペニーを投ずべし斯の如く從て投ずれば從て光り常に一ペニーに付半時間の割合を以て乘客の需めに應ずるのみならず何時にても函の下邊に當るボタンを壓せば燈火は速かに消ゆる仕掛なり茲ニ最も愉快ある是若し器械に損所ありて火光を發せざる時若くは他の貨幣を投ずる時は其鍵は函底の口より落ち來るを以て客は直に損する所なしと云ふ今ニ始めぬ事ながら人智の天然力を利用するの極、汽車中の讀書燈ニ及ぼし孤客夜行の徒然を慰むる友たらんとは文明の前途も亦驚くべきかなとぞ

○西伯利亞の苦熱　世人は露領西伯利亞を沍寒不毛の地方のみあるべしと思へども先頃の本紙上にも記せし如く深く内地ニ入りて探檢すれば世人の臆想に反して氣候温和草木繁茂の部分もある趣きなるが夏時西伯利亞を旅行せしヲヨージ　ケナン氏の話に從へば同地方の熱は亞非利加沙漠の苦熱にも劣らざる程ある旨なり近頃同氏がセンチユリー雜誌に投じたる旅行記の一節に云へる樣吾々の一行がイルテス河を溯るニ從ひ氣候は次第〳〵に熱度を高め廣野は益々荒廢して亞剌比亞又は北亞非利加の沙漠を見るの思ひあり驗温器は毎日樹蔭にても九十度乃至百磅三度の間を上下し空氣は吾々の息を塞ぐ程にて見渡せば眼界の達する限り廣野の草木は皆な日光の直射に堪へ兼ね萎靡して殆んど生氣なし又旋風は砂塵を飛ばし其高さ百呎乃至百五十呎に及び怜も砂雲の空中を飛ぶに似たり余は熱と渴の爲ニ苦しみ日光の激射を避くる爲にブランケットを四枚重ねて身體ニ纏ひしが此時五分間も日光の直射を受くれば苦痛堪へ難かりし余は自から西伯利亞の事情に精しと信じたりしが故に境界を踰へて内地に入るに當りブランケットを以て手足を纏はざるを得ざる程の熱光を見るならんとは思はざりしチムスク府にて露國の一士官が余ニ向ひイルテス河邊の熱は旅客をして眩暈頭痛を惹起さしむる程なれば一天晴れ渡りたる日には午前十一時より午後三時まで非行を見合せ休息すべしと忠告したれども余は之を聞き一笑に附したりしニ實際其地を踏むに及んで一士官の言、余を欺かざるを曉りたり云々

○茨城縣那珂港の改築費豫算　は或は廿萬圓にて事足るべしと云ひ或は四十萬圓を要すべしと云ひ孰れにも未だ決定せざれど兎に角改築の運に至りなば同港の有志者より十萬圓位は醵出すべしと云ふ

○鳥取市會議員の撰擧會　は今十八日より同市敷片原町眞宗寺に於て執行するに付き撰擧掛四名を選びたり十八日は三級議員(十人)二十日は二級議員(十人)二十一日は一級議員(外十人)を選擧する筈にて注意の爲めとて其手續

(以下次號)

雜報

○汽車の諸書用電氣燈　電氣應用の發明多き中にも特に米國南東鐵道の汽車に設けし諸書用電氣燈の燈きは最も新奇のものにして弊と是れ一種の自働電氣に基き一センチメートル(凡二錢五厘)の貨幣を投ずれば之ニ價する